

東北大学大学院歯学研究科  
インターフェイス口腔健康科学  
第103回学術フォーラム  
*Forum for Interface Oral Health Science*

『歯科保健施策の動向について』

高田 淳子 先生 (本学33回生)

厚生労働省医政局歯科保健課  
歯科口腔保健専門官

平成29年2月9日(木) 17:30～18:30

歯学研究科臨床研究棟(C棟)1階・大会議室

我が国は、国民の4人に1人が65歳以上の高齢者となる超高齢社会を迎えており、2025年には約800万人の第1次ベビーブーム世代が75歳以上に達するため、今後、国民の医療や介護に対する需要はますます増加していくと見込まれている。

このため厚生労働省では、2025年に向けて、高齢者の尊厳の保持と自立生活の支援の目的のもと、可能な限り住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを人生の最期まで続けることができるよう、地域の包括的な支援・サービス提供体制(地域包括ケアシステム)の構築を推進している。

講演では、近年の歯科分野における公衆衛生施策に厚生労働省、医育機関、学会、歯科医師会、地方公共団体等がどのように関わっているか説明する。また、歯科医師のキャリアパスの現状と課題を踏まえ、歯科医療の専門性、女性歯科医師の活躍等について話したい。

連絡先: 第103回モデレーター 佐々木 啓一 (歯学イノベーションリエゾンセンター)